

活動レポート

青木健作顕彰の会

今回は、周南市出身の唯一の作家・青木健作の顕彰に取り組んでいるグループをご紹介します。

青木健作とは



青木健作

青木健作（1883-1964）は、山口県都濃郡富田村河内（現・周南市河内町）出身の小説家。明治から昭和初期にかけて活躍し、彼の代表作「虻」は夏目漱石にも賞賛されました。また、健作は『帝国文学』の編集に携わり芥川龍之介の「羅生門」を世に出した人物でもあり、晩年には母校・富田西小学校の旧校歌を作詞しました。健作は東京帝国大学（現・東京大学）への進学を機に上京し、その最期を迎えるまで千葉や東京での生活を送りましたが、彼の作品のほとんどは故郷・新南陽や山口県が舞台となっています。近年では、やまぐち文学回廊構想推進協議会によって金子みすゞ、種田山頭火、中原中也等とともに「ふるさとの文学者 13 人」に、また周南市美術館によって与謝野鉄幹とともに「周南の近代を彩った人たち—文学者編—」に選ばれました。主な作品としては「鼯鼠（いたち）」「虻」「お絹」「若き教師の悩み」「錆たる鋏」「鼻」等があります。

1. 活動を始めたきっかけを教えてください。

（和知）会の発足は平成 2 年にさかのぼります。当時、会長をはじめとする 4 名で勉強会を開催していたことから活動が始動し、会の発足に至りました。そこからは、主に勧誘によって会員を増やしていきました。私の場合、当会の役員を務めていた義理の姉の勧誘を受けて会の運営の手伝いをするようになった、というのが入会までの経緯です。健作の作品は以前から読んでいた訳ではなく、入会をきっかけに読むようになりました。他の会員に関しても、入会前から健作の作品を読んでいたのではなく、会員の勧めで作品を読み始めて入会に至ったというケースがほとんどです。

2. 青木健作の魅力とは？

（桑原・和知）健作の作品は、明治・大正時代を生きる田舎の庶民が抱えていた飢えや貧しさ等の苦しみを写實的に描いています。そのため、当時の様子をつかむには良い資料になるかと思われれます。また、舞台に対する土地勘があると作品をより興味深く感じることができますし、土地勘がなくとも健作の作品を知ることによって日常のふとした風景をより興味深いものとして感じることがもできます。やはり、自分の地元が舞台であるため作品に魅力を感じている、という要素は大きいです。

●青木健作の作品の主な舞台

…四熊岳付近（山鳴り）、健作旧家付近（行ける所まで・錆たる鋏等）、黒髪島（錆たる鋏）、浜田川（鼯鼠・行ける所まで）、古市港・大津島（夜の人々）、川崎観音（夜の人々・錆たる鋏）、野村開作（虻）等



会長
桑原伸一さん



事務局
和知盛之さん

3. 青木健作顕彰の会は健作の短編集「ふるさと文芸」を出版されていますね。

（桑原）私たちは、健作の作品が現代の人々にあまり読んでもらえていない、ということの問題視していました。そして、どうやったら健作の作品をより多くの人に読んでもらえるのか考え、平成 6 年、地元の方の興味をひきやすいよう地元が舞台となった作品を選出し、原作の旧漢字や旧仮名遣いを常用漢字、現代仮名遣いに直して、一冊の本として発行、そして市内の学校や図書館等に配布しました。今振り返ると、作品の編集は大変な作業だったかもしれないように思えます。しかし、当時は本気だったからつらいとは感じませんでした。

4. 作品購読の他に「文学散歩旅行」を行っているんですね。

(和知)年3回ほど、作品に登場する場所等健作ゆかりの地を訪問し、そこで作品を読んだりしています。せっかく地元が舞台となっているのだから、という理由で作品の舞台等を訪ね始め、過去には市・県内のみならず島根県の益田や六日市、広島県の吉和等、県外へ足を運んだこともあります。やはり、作品の舞台等を訪ねることによって作品への理解がより一層深まっていると感じます。参加者からは「会長の解説が楽しい」という感想をいただいたことがあります。実は、文学散歩旅行が好きだから活動を続けている、という会員もいます。



平成 27 年 7 月、山口市にて
文学散歩旅行

5. 毎年 11 月下旬に「青木健作顕彰の集い」を開催していますね。

(和知)今年で 22 回目となり、11 月 29 日(日)に開催します。開催当初は学者の方や健作の親族の方等、健作に関わりのある方をお呼びして講演会を開催していましたが、回数を重ねるにつれ講演をお願いできる方が少なくなってきました。そこで何か代わりに出来ることがないか考え、6 年前から健作の作品を紙芝居として制作し、その披露を開始しました。

また、この集いでは一般から募集した短歌・俳句・川柳の表彰を行うとともに、富田西小学校の児童と OB、そして市内のコーラスグループであるコールひまわりと放課後子ども音楽教室の児童による、健作作詞の富田西小学校旧校歌の合唱を披露しています。普段は歌われることのない旧校歌ですが、この集いによってその存在を後世へ伝えてゆけたら、と思います。

7. 皆さんに伝えたいことをどうぞ！

(和知)まず、日常的に文章に触れることの重要性をお伝えしたいです。文章に触れることは脳の老化防止に役立ちます。新聞の購読からでもよいので、ぜひ日常的に文章に触れてみてください。

そしてぜひ、当会の活動、そして青木健作に関心を持っていただきたいです。毎年開催している「青木健作顕彰の集い」ですが、地区に関係なく多くの方に来ていただきたいですし、短歌・俳句・川柳に関してもお気軽に応募していただきたいという思いがあります。また、当会発行の「青木健作顕彰の会だより」は市内の公共施設等に設置していますので、ぜひ一度お手に取ってみてください。

健作は故郷・周南市においても知名度が低いように思われます。多くの方に健作の作品を読んでもらいたいのは勿論ですが、私たちが健作の作品を一番読んでいただきたいと思うのは 40、50 代の方々です。彼らに健作の作品を読んでもらい、そこからまた次の若い世代へ健作の作品の魅力を伝えていっていただければ光栄です。私たちは「ふるさと文芸」の発行を行い、また毎年「青木健作顕彰の集い」も開催していますが、健作の魅力を更に広く発信してゆく必要性をあらゆる場面で強く感じます。より多くの方々に周南市出身の唯一の作家・青木健作への興味を持っていただけるよう、私たちも精力的に活動してゆきます。

6. 今後はどのような活動をされる予定ですか？

(和知)これまでの活動を継続することは勿論のことですが、いくつか実現したいことがあります。1 つ目は「健作カルタ」の作成、2 つ目は会のホームページの作成、そして 3 つ目は以前新南陽図書館にて行っていた「健作関連資料の常設展示コーナー」の復活で、これらの実現を通して健作と会の更なる PR を行っていきたいです。常設展示コーナーの復活に関しては、やはり地元こそ健作を紹介する場所があるべきだと思っています。しかし、その必要性を説くためには私たちが健作の功績を称え続け、それを多くの方に理解していただかなければならないのだと感じています。

11/29(日)周南市学び・交流プラザにて
「第 22 回青木健作顕彰の集い」
を開催。詳細は支援センターHP へ。

◆青木健作顕彰の会◆
TEL/FAX 0834-63-1129(和知)